

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回宍粟市観光基本計画検討委員会	
開 催 日 時	令和4年1月24日（月）15：00～17：00	
開 催 場 所	宍粟市役所 3階 庁議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	三宅 康成	
委 員 氏 名	（出席者） 上野徳之、西山大作、中元淳、 榎谷米男、志水啓吾、坂口雅彦、 岸本欣也、前井真貴、廣重希美、 加藤智子	（欠席者） 山田拓也、片桐幸之助
事 務 局 氏 名	商工観光課：藤原課長、上杉係長、前野主査、久保	
傍 聴 人 数	0人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	<input checked="" type="radio"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1. スケジュールの変更・延長について 2. 現行計画の延長案について 3. 宍粟市の観光の現状について 4. 骨子案について	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等		
議 事 録 の 確 認 （記名押印）	（委員長等） _____ ㊟	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1 開会
委員長	明日から新型コロナウイルスまん延防止措置がはじまる。身近な感染が多いので、迅速で効率の良い会議になるように皆様にご協力いただきたい。
事務局	できるだけ要点を絞って短時間の会議にしていきたい。
	2 協議・報告事項
委員長	(1) スケジュールの変更・延長案について 事務局より説明をお願いします。
事務局	事務局より説明
委員	前回、7つの検討ポイントをあげさせていただいた。その中で、前計画の成果を検証すること、大きな目標となる観光の将来を共有することを言ったが、成果の検証をすることは非常に重要なことと考えている。今日の協議としては、骨子案の協議の前に検証をしていただけないかと思っているがいかがか。
事務局	今日の予定を説明させていただくことも含めて回答させていただく。まず、現行計画の延長については、案を説明し、協議及び可決いただく予定である。続いて、宍粟市の観光の現状というのをデータのわかりやすく説明してほしいという意見が前回会議ででましたので、観光の現状や観光消費額について一度説明をさせていただく。そのあとに、骨子案について説明をし、主に4・5の部分について協議していただく予定である。骨子案の計画や概要、現状と課題等は、大きく変わるものではないと考えている。本日、委員の皆さんから骨子案について意見をいただき、事務局で集約させていただいたうえで、次回の委員会で再度提案させていただく。また、追加で検証すべきことなどがあれば、追加資料で提示をさせていただく。後ほど、皆さんの意見をいただければと思う。
委員	骨子案の2. 現状と課題とあるが、主に、2020年2021年のデータをもとにした課題だと感じる。おそらく、参加されている検討委員の方は、新型コロナウイルス感染拡大により、観光が駄目になったとは考えていないと思う。その前から宍粟市の観光の基盤みたいなものが築けてないところを問題視されているのではないかと私は解釈している。そのため2020年以降より2019年までのデータほうが非常に大事ではないかと考えている。それにより課題も大きく変わる。アウトドアに対応するのも大切だが、それ以外の課題があると思っており、このように課題がまとめられることに抵抗がある。
事務局	次回の会議までに、2019年以前のデータ等を提示させていただく。本日の委員会に関しては、提示している資料をもとに、皆さんの意見をいただくこととさせていただきます。
委員	参考までに、兵庫県中小企業診断士協会の地域産業活性化研究会が出している報告書がある。かなり詳細に、宍粟市の観光のデータを分析されておりコロナ前の状態として一番的確な資料だと思うので、皆さんで共有できればと思う。
事務局	その資料に関しては、送付させていただく。

委員長	<p>観光についてはこの 15 年、様々なプロジェクトが同時並行で行われており、検証作業も行われているのではないかと思います。宍粟市においても地方創生を取り組んだプロジェクトについての検証作業や結果が参考になる。産業系や地域資源、コミュニティーなど様々なセクションで観光は関わってくるので、全て見るというのは難しい。どこに焦点化していいかわからないので、骨子抽出や、キーワード抽出のような傾向抽出をやっていただくと、恐らくどんな傾向で観光が変化してきたかがわかって、トレンドが分かると思う。コロナ以降の影響のみによらず、コロナ前のトレンドも含めて少し情報提供していただくと、皆さん参考になるというふう感じた。</p> <p>では、(2) 現行計画の延長案ということで、事務局から御説明をお願いします。</p>
事務局	事務局より説明。
委員長	委員の皆様、事務局案でよろしいでしょうか。問題なければ、続いて、(3) 宍粟市の観光の現状について事務局から説明をお願いします。
事務局	事務局より説明。
委員	これは、3次計画の中にこの文言を掲載するという認識か。それとも、この検討委員会用の資料か。
事務局	検討委員会用の参考資料である。
委員	観光客の出発地について、道の駅へは市内の別の目的地に行った後、次の立ち寄り施設として訪れているのではないかとあるが、道の駅は観光客だけでなくビジネス客も利用している。観光とビジネスの割合などはわかるのか。
事務局	現状、そこまで詳しくわかることは難しい。このデータ自体は、ナビタイムの検索データをもとにしており、ある程度限定的なものになる。
委員	観光庁のホームページの中に、観光入込客数に関する共通基準があり、その中に観光地点パラメーター調査というのがある。これは県や市町村が複数の観光地点で行うように書いてあるが、当市の観光地点ではパラメーター調査はされてないか。
事務局	確認して次回に回答させていただく。
委員	山崎旅館 Q が 11 月末まで設置されていたが、そこではアンケートなどは取っていないと聞いた。臨時観光案内所は観光動向調査目的で開設されたと聞いたので、観光客へ利用動機や行動形態などのアンケート調査をする必要があるのではないかと提案させていただいていた。調査はどこでもできると思うが、そのような検討はされてこなかったのか。
事務局	もみじ祭りの会場でアンケート調査は実施している。次回までに出せる資料があれば、事務局でまとめたものを報告させていただく。
委員	4 ページの説明からは、主要ターゲットに向けてアウトドアアクティビティを PR していくようにとれる。また観光目的地一覧で宍粟市が、上位に 8 つ入っているが、そのうち 4 つは道の駅である。もっと観光地点を増やすこと、1 つ 1 つの観光地の誘客を増やすことが大事だと考える。

事務局	今回の資料というのは、このまま計画に載せるのではない。現状での数値ということで資料をお示ししている。先ほど発言があったように、アウトドアに誘導するというような思いはない。考えられることとして、密を避けた旅行やマイクロツーリズム化で、アウトドアにも目が向いている視点もあるということである。こういう側面でもう少しこう分析したほうがいいのではないかな等の意見をいただきたいと思う。
委員	データの出所が限られているように感じる。分析結果も、こうじゃないかという推測がかなり多分に入っていると思う。来た人から直接データをとる仕組みが作れないか。
委員	全国統一のアンケート様式があるので、利用してみても良いのではないかな。
委員長	以前は動態調査くらいしか観光地データはなかったが、地方創生の流れの中でビッグデータを活用できるのは、少し参考となるデータも出てきたと考える。あとはそのデータをどう理解、解釈するか。こんなデータが欲しいなど、何か要望があればおっしゃっていただきたい。
委員	観光消費額のデータで、西播磨地域とあるが、近隣の市町との比較が欲しい。宍粟市は他市町に比べて何が弱いのが必要。
委員長	続いて、(4) 骨子案について事務局から説明をお願いします。
事務局	事務局より説明。
委員	宍粟市は多種多様な観光資源があるが、その観光資源が観光商品としての完成度が高まっていないと思う。もみじ山も昔は観光客などいなかったが、もみじ祭りとしてイベントを拡大して行った結果、10年ほどで、52,000人の観光客を集めるようになった。兵庫県の指標に基づいて計算すると、観光消費額が3億6200万円、経済波及効果は5億2250万円になる。このように、観光資源を発掘することは可能だと考えている。こういった作業を加えていくことで、観光資源が付加価値の高い観光商品になっていくのではないかなと思う。観光の4つの基本方針を提案したい。1つ目は観光商品としての完成度を高める。2つ目は観光消費に応じたプロモーション。3つ目はアフターコロナの観光スタイルへの対応。4つ目は市民共同による推進。これを観光の基本方針として、差し替えていただきたいくらいに考えている。現在の方針も非常にイメージの良い言葉が並んでいるが、内容としては弱い。方針というのは、実際にこういう道順を通して実現していきましょうということを方針としていただきたい。
委員	宍粟市にとって観光とはなにか。委員の方はもともと観光に関わっている方が多いので熱心だが、一般の市民の方にとっては、あまり関係のないものになっていると感じる。市民、関連事業者、さらに、関係ない業者もみんな、協働して取り組もうというように作成されている。観光でどうしたいかというゴールイメージがないと、目先のことばかりになってしまう。まず、その議論が最初ではないかなと感じた。これを全部読むと、観光は活力ある地域づくり、交流人口の拡大、経済の持続的な発展など宍粟市でなくとも、どこの市でも言える事ばかりなので、もっと宍粟市に落とし込んだものにしたい。
事務局	まず、ご指摘いただいた、計画の概要の目的と基本理念については、ひとまず変更はなしに現状のまま引き継ぐことを事務局から申し上げた。ご指摘のように漠然と定義があるのは、1回目の資料3-1にある「ふるさとしその観光条例」から文面をとって載せている。そのため、この観光条例の考え方を踏襲し

	<p>ながら、観光計画をつくっていく。この観光基本計画には、この文言をそのまま入れるわけではない。この大きな市の方針の条例のもとで計画を立てていくという組み立てにする。</p>
<p>委員</p>	<p>条例にも出てくる言葉で、「ふるさと」という言葉がすごく大切だと思う。最近、地方活性化で「100年続く」といったキーワードをよく耳にする。目先の利益だけでなく100年先まで続くためのまちづくりの中のひとつが観光だと思う。それをする中で、若い人も宍粟市の魅力に気づくのではないかと考える。100年続く経済の仕組みと、住み続けたいと思う気持ちが必要。観光は外からの評価、第三者からの評価が重要だと感じる。観光によって盛り上がると、第三者から評価され、それが市民の自信や誇りにつながる。それに加え、事業者がうまく回ることによって、経済が回るので、両方に関係するところではすごい観光の強みだと思う。また、宍粟市は様々な観光ニーズにこたえられる広い入り口があるが、チャンピオンがいない。入ってきた人を宍粟市内で横展開する仕組みを取り入れることができればよいと思う。</p>
<p>副委員長</p>	<p>やはり人が大事だと感じる。リピーターは現地の良さに感動してリピートする。文書は作らなければいけないが、作って終わりではなく、誰に届けたいかを明確にして作ると良いものができると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>宍粟市には4つの町があり、住んでいる町以外のことを知っているかという自信はない。まず、4町の中でお互いに興味関心を持って知り合うための、検定みたいなものが出来たらよいと思う。問題を市民から募集することで、自分たちで作らせたと感じるものができる。そうすることで、参加する仕組みができる。それを市外の人も参加できるような仕組みをつくったら、入り口として何に興味関心を持っているかの情報もとれるし、来てもらうきっかけにできると考える。少しずつでいいので、みんながそこに参加できるような仕組みで、それが市の魅力をアピールするようなものになるし、市の人たちが聞かれたときに自分たちの町のことを知ることによってその情報の発信者になっていけるような仕組みが出来たら、市民を巻き込んでいけるのではないかと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>なぜ、こういう観光条例基本計画をやるのかというのも、6年前に各自治体が地域創生のビジョンを作った。まず地域が元気にならないと観光に結びつかない。波賀町の元気づくりネットワークは12団体を一つのネットワークにして行政の力を借りずに頑張っている。軽トラ市にしても、5000人余りが訪れている。これは観光目的ではなく、地域づくりとして行ったことが、結果として観光に結びついている。地域を元気にすることが観光の最終目的だと思う。まずは、目的を達成するために基本計画を作ってみんなで取り組まなければいけない。アフターコロナやインバウンド、SDGsなど様々な問題があるが、それらをどのように基本計画の中でリンクさせていくのが非常に重要だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>具体的に宍粟市の自信や誇りというのは、例えば宍粟牛というブランドを売り出していくなどを通じ、宍粟市にはこんないいものがあるというように、やれることはたくさんあるのかと思う。例えば、道の駅での販売物を宍粟市産のものでそろえる、フォレストステーション波賀の食材を、宍粟市ブランドですべてそろえるなど、まだまだ改善の余地がたくさんある。全国どこを見ても地産地消ができているところは非常に少ない。そういったところをこれから改良していくというような言葉を計画に入れることにより、時間はかかるが観光立市になっていくと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>宍粟市は本当に観光の間口が広い。言葉一つでもいいから宍粟市らしさをキーワードに入れていくべきだと思う。</p>

委員	第2次の計画の、初めに…とはじまるところが、国がやり始めたので宍粟市もしますというところを、宍粟市が観光をしなければならない理由を書く必要がある。観光の将来像という項目も入れたらと思う。
委員	目的地への出発地は、調べることができるのは自動車の利用だけか。二輪車などは入っているか。
事務局	公共交通機関もあるが、宍粟市はかなり少ない。二輪車も入っているかと思うが、ナビタイムを使っただけの検索のみが反映されているので、はっきりとは分からない。
委員	緊急事態宣言が明けてから、他府県の車などをよく見かけるので、道の駅利用者の客層などカウントしたりリサーチしたりするのもひとつかと思う。また、今までの事業を見ていると、全て単発の事業だと感じる。例えば、四季それぞれの事業を立ち上げて、何度か訪れていただいて制覇してもらうことで特産品がもらえるといったようなことができたらと思う。宍粟市は県内でも知られていない。まずは宍粟市を知ってもらう、そしてそこに発信していくことができればと思う。また、アンテナショップは、姫路だけか。また、動画等は流しているか。
事務局	農産物の販売を通じて行っているのは、姫路の「きて一な宍粟」と神戸の「好きや de 西播磨」の2か所である。パンフレットの配架等のほかに、動画によるPRも行っている。
委員	観光は地域づくりや地域おこしからということで、地域の中でそれぞれ頑張っているところが間口になっているということだったが、まずその横のつながりを強める動きが大事だと感じた。第三者の評価が大切だとおっしゃっていたが、第三者というのは別に市外の人でなくてもよいと思う。それぞれが頑張っていることを認めるのも、それぞれの高め合いになる。それぞれが宍粟らしさを口にできる市になれば、お互いに刺激し合えるのではと思う。
委員	地域づくりを中心とした観光を考えるのであれば、資料4-1の5の具体的な取組づくりは少し違うと感じる。今地域にあるものを、使ったり使わなかったりという流れになるときに、結局これをしたからといって地域の変化っていうのはあまりないと思う。逆に、市が勝手にこんなことをしているというふうに、地域と離れてしまう可能性がある。京都市のような大きい観光立市は地域と差があるものだと思うので、大きい観光と宍粟市の観光が違うのであれば、地域を中心とした取組づくりというのをもう1回考え直してもいいのではと思う。
委員長	いろんな観点で発言をしていただきましたので、事務局のほうで要点を整理していただいて、出たアイデアをどういうふうに骨子案の中に反映させ、定めていくかという作業を今後していくかと思う。できること出来ないことは絶対あるので、全てが皆さんの満足度100%ということはありませんが、何とか皆様方がある程度納得いただけるような計画に作り変えていければいいかと思う。
委員	前回、委員の中から会議と会議の間の期間に、課題に対して事前に提案したり出来ないかというような意見があったが、どうさせていただけばよいか。
事務局	何か意見等があれば、事務局宛にメールなどをいただければ受け付けさせていただきます。それが反映できるものかどうかの判断はさせていただきますが、紹介すべきことは皆さんに紹介します。

委員	例えば次こんなことを提案したいと委員が事務局へ提出があっても、その内容を事前に知ることはできるか。
事務局	基本的にこれからの流れとしては、今回送らせていただいたように、事前資料ということで送らせていただこうと考えている。間に合うようであれば、提案いただいた方とも協議した上で、共有させていただく。
委員長	骨子案のところが終わりました、以上で、次回に向けて整理をしていただくということで、お願いしたいと思います。 4 その他 事務局よりお願いします。
事務局	本日示させていただいたスケジュール案をもとに、次回は3月下旬を予定している。コロナの状況もあるので、また事前に連絡させていただく。
委員長	4 閉会 最後に副委員長から閉会の挨拶をお願いします。
副委員長	皆さんお疲れさまでございました。本当に方向性の議論ということでは、どれも本当に貴重な意見ばかりだったと感じている。なかなかコロナの状況が読めないところもあるが、感染対策など、体調を十分整えていただきたいと思います。

* 発言者の表記は、「〇〇議長」、「〇〇委員」、「事務局」とする。